

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(12月13日～12月19日)

2021年12月23日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 25年ぶりに中央選挙管理委員長が交代(12/13)
- セルゲイ・チハノフスキー氏(チハノフスカヤ民主勢力代表の夫)ら著名な政治犯への判決(12/14)
- チハノフスカヤ民主勢力代表、ネーハマー・オーストリア首相他と会談(12/15)

【ルカシェンコ大統領動静】

●25年ぶりに中央選挙管理委員長が交代

・12/13、ルカシェンコ大統領はカルペンコ前教育大臣(共産党)を中央選挙管理委員長に任命。エルモシナ前委員長は引退。

・大統領は、改正予定の憲法が国民投票で承認された場合、中央選挙委員長及び委員の人事は全ベラルーシ国民会議の承認に掛けられる予定であること、カルペンコ委員長がミンスク市当局時代に数々の選挙を経験したことに注目した抜擢であることを強調。

(12/13 大統領府)

●高官人事

・イサチェンコ・モギリョフ州執行委員長(州知事)

(前国民議会共和国院(上院)副議長)

・スポチン・ヴィテプスク州執行委員長

(前副首相)

・ザヤツ国民議会共和国院議員

(前モギリョフ州執行委員長)

(12/13 大統領府)

●今後の選挙に関する発言

12/15、大統領はヴィテプスクでスポチン同州執行委員長を同州幹部に紹介する席上、今後の選挙に関して要旨以下を述べた。

・新しいベラルーシ大統領選挙は、国際的な選挙監視員の前では行われたい。

・社会に新しい不安が生じる可能性があるからこそ、新しい選挙の実施について考え直した。

・憲法改正の国民投票は、ルカシェンコのためのもの

ではない。憲法の権威を保つために行われる。

・憲法改正によって二重権力が生じてはならず、現在のような権力体系がひとまとまりになっている国家を存続させるべき。

(12/15 大統領府、12/16 国営「首都テレビ(STV)」)

●制裁対策会議の実施

大統領は要旨以下のとおり述べた。

・制裁を利用して不正に利益を上げようとする連中は多く、国家統制委員会だけで取り締まることはできないほど。

・国内の生産能力を発達させるよう、政府、国立銀行(中央銀行)、地方当局、国民議会は総合的な措置を講ずること。

・指導的立場にある者を調べ上げること。反国家的立場を取っている指導者があまりに多く、特に医療関係者に多い。

・異なる意見を持つことは禁じられていないが、対ベラルーシ制裁を求めるなら、リトアニアやポーランドに行って求めるがよい。向こうでなら、6年や8年といった自由剥奪刑に処されることもない。

・1930年代のような行き過ぎや圧制があってはならない。その時代に圧制があったのかどうか、自分(大統領)は知らない。こうした歴史上の事実は都合良く利用されている。

・昨年の大統領選挙で自分以外の候補者の立候補のために署名した人は何千人もいたが、それがどうしたというのか。この1年で社会は大きく変わり、人々は満足している。そのことは近日中に発表される世論調査からも明らかである。

・自分以外の候補者に署名した者ら、特に権力の上層部から指示を受けていた者を調べなければならない。現在、そのような者らが逮捕され尋問されているのはなぜか。法律に違反し、人々にも法律違反をすよう働きかけた者は、そうした行いにつき調べられなければならない。

(12/16 大統領府)

【外交】

●EU、新しい対ベラルーシ制裁導入の準備を発表

12/16、欧州連合(EU)27か国の首脳は、「移民及び難民の道具化」と、その結果生じたEU・ベラルーシ国境での人道面での危機に関し、ベラルーシ当局の行動を非難。新たな対ベラルーシ制裁を導入する用意があると発表。

(12/17 Zerkalo)

●グラス外務省報道官は、ベラルーシへの如何なる制裁に対しても、欧州連合の各国が耐えることができないう対応が行われることになると発言。

(12/17 Zerkalo)

●ペスコフ露報道官による露・ベラルーシ関係に関する発言

ペスコフ露報道官は要旨以下を述べた。

・ベラルーシとロシアの同盟関係は様々なテンポで進展しており、不和もある。両国は連合国家ではあるが、ベラルーシは主権国家であり、ルカシエンコ大統領は主権国家の大統領なのだということを忘れてはならない。同大統領には、ロシアとの統合を深化させるのか慎重に進めるのかにつき、独自の見方がある。

・連合国家プログラムへの署名により、前進することができる。どの程度までかは誰にも言えない。統合の最終目標は、ベラルーシ・ロシア両国民の利益。統合が完全に機能し始める時、両国民は実生活において改善されたことを実感することになる。

・ベラルーシは大変攻撃的な行動の被害者となっているが、幸運なことに我々(ロシア)が隣にいて、こうした攻撃的な行動に耐えられるよう支援している。ベ

ラルーシは、ロシア無しでは、あつという間に分からない存在に変えられ、ウクライナどころではなく、もっと悪くなるであろう。

(12/17 Zerkalo)

●マケイ外相は、アラビア語版ロシア・トゥデイのインタビューで、NATO側からの脅威の際にはベラルーシ国内に核兵器を配備する準備があると発言。

(12/18 Zerkalo)

●ベラルーシ検察庁、移民に対するポーランドの違法行為の証拠を国際機関に送付予定

・ベラルーシ検察庁は、移民に対するポーランドの違法行為の証拠5件を収集したと発表。

・違法行為に携わったポーランド高官の中には、ドゥダ同国大統領やモラヴィエツキ同国首相も含まれている。

・証拠物件の写しは国連及び欧州評議会を含む全ての国際機関に送付される。

(12/19 国営「全国テレビ(ONT)」、Zerkalo)

【内政】

●対ベラルーシ制裁の呼びかけに刑事罰適用へ

12/14、ルカシエンコ大統領は法律「ベラルーシ刑法改正について」に署名。同改正により、ベラルーシ、その国民及び組織への制裁を呼びかけた場合、それぞれ以下の年期の自由剥奪刑に処される。

・一般人に対して:6年

・外国、国際機関及び外国機関に対して:9年

・公務員が職権を濫用して呼びかけた場合:12年

・ベラルーシ企業との取引の制限、ベラルーシ企業が制裁リストに掲載される等の重大な結果がもたらされた場合:12年

(12/14 大統領府)

●チハノフスキー氏ら著名な政治犯に対する判決

(12/14)

・セルゲイ・チハノフスキー(スヴェトラナ・チハノフスカヤ民主勢力代表の夫でビデオブロガー)

- 強化更生施設における 18 年の自由剥奪刑
- ・ニコライ・スタクヴィチ(未公認野党「ベラルーシ社会民主党『国民のグラマダ』」党首)
- 14 年の自由剥奪
- ・ヴラジミル・ツィガノヴィチ(非政府系 YouTube チャンネル「MozgON」を運営)
- 強化更生施設における 15 年の自由剥奪刑
- ・イゴリ・ロシク(非政府系 Telegram チャンネル「Belarus golovnogo mozga」を運営)
- 強化更生施設における 15 年の自由剥奪刑
- ・アルチョム・サコフ(チハノフスキー氏が設立したサイト「生きるための国」の管理者)
- 強化更生施設における 16 年の自由剥奪刑
- ・ドミトリー・ポポフ(サイト「生きるための国」SNS 版モデレーター)
- 強化更生施設における 16 年の自由剥奪刑
(12/14 BPN(旧ベラパン通信))

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民

全般

・12/14、ドイツの警察は、本年初めから、1 万 918 人の移民がベラルーシ経由で流入しており、その大半がイラク国籍であったと発表。

イラクへの帰国便の第 10 便の運航

・12/17、ミンスク空港は、イラクへの帰国便の第 10 便がミンスク空港からイラクのエルビルに向け出発した旨発表。同便には、大人 257 人、2 歳未満の子ども 1 人の合計 258 人が搭乗。

帰還に向けたイラク政府の取り組み

アフメド・アッサハフ・イラク外務省報道官は同国通信社 Iraqi News Agency(INA)に対し、要旨以下を述べた。

- ・既に 3,556 人以上のイラク国民が帰国。
- ・旅券を紛失した 383 人に対して旅券を再発行。
- ・イラク外務省は在ロシア及び在ポーランド・イラク大使館を通じ、イラクからの移民の自主的な帰還に取り組んでいる。

約 800 人が一時収容施設に残留

・シェフツォフ・ベラルーシ赤十字社長によれば、12/13 現在、移民の一時収容施設となっているベラルーシ・ポーランド国境のロジスティクスセンター「ブレミノ・ブルズギ」に約 800 人が残留。

(12/13-17 BPN(旧ベラパン通信)、Zerkalo、ミンスク空港、Sputnik.by)

●ベラルーシ・中国二国間装備品・軍事技術調整委員会の第 17 回会合の開催

・12/17、ビデオ形式で会合。パントウス国家軍需産業委員長と、ヘ・ユイビン中国共産党中央軍事委員会装備発展部装備技術協力局次長が出席。

・席上、両国の軍事技術協力の成果が総括され、達成された成果が高く評価された。

・軍事技術協力が両国の戦略的パートナーシップ関係の重要な指標であること、両国間には強固な政治的基盤があること、対等かつ互恵的な信頼という原則に基づいて両国関係が進展していること、両国の核心的利益に適っていることが強調された。

(12/16 国家軍需産業委員会)

【経済】

●中国・ベラルーシ産業特区「巨石」に新企業が入居

・12/14、ベラルーシ・中国産業特区「巨石(Great Stone Industrial Park)」にベラルーシ企業「ヴェーテル・ウダーチ」が入居。

・同社は電子商取引分野での活動を含むイノベーションプロジェクト「Wind Of Luck」を実施予定。

(12/14 「巨石」公式サイト)

●ベラルーシからエストニアへの輸出量の急増

・エストニアのメディアは、ベラルーシからの著しい輸出増加を指摘。商品群によっては、30 倍の増加が見られている。主要な輸出品は石油製品で、鉄道にて輸送されている。

・エストニア外務省は、輸送業者は、商品が制裁リストと一致しているかを点検しており、違反は発見されなかった旨発表。その上で、制限がより正確になり、もしくは、変更されることになれば、エストニアは法令

遵守を見直す準備があると付言。

(12/16 Zerkalo)

●銀行発行の決済カードの減少

・ベラルーシでは、住民が所有している銀行の決済カードの数が減少している。

・ベラルーシ国立銀行は、10月1日現在、1,524万9,000枚のカードがあると発表しており、これは昨年初めよりも23万7,600枚少ない。

・デフォルトによるインターネット決済の不可能な「プラスチック」の発行、外国への送金回数の制限の導入、発行カード数の制限の設置といった内務省による勧告を背景に更に減少する可能性がある。

・内務省はこの勧告をサイバーセキュリティによるものであると説明している。

(12/19 Zerkalo)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の活動

(1) ネーハマー・オーストリア首相他との会談(12/15 於:ブリュッセル)

・東方パートナーシップ首脳会議において、フィンランド、スロバキア、オーストリア、ベルギー、ルクセンブルク及びスロヴェニアの欧州連合加盟国の6か国の首脳と会談。

・ネーハマー・オーストリア首相との会談では、ベラルーシのA1社へのベラルーシ当局の攻撃に注意を向け、オーストリア企業はベラルーシ当局と関連したプロジェクトへの投資及び国営企業との協力を止める必要があると強調。

(2) ウィットフェルト・ノルウェー新外務大臣とのオンライン会議

・会談では、Yara社(ノルウェー企業)が、制裁を受けている「ベラルーシカリウム公社」のカリウムを購入し続けている問題について議論した。

(3) Yara社(ノルウェー企業)CEOへの電話(12/16)

・Yara社CEOへ電話し、選挙の捏造に「ベラルーシカリウム公社」の経営陣が直接参加したことを示す調査結果を共有した。

(4) ラルヒャー・フランス上院議長及び仏バルト3国友好上院議員団と会談(12/19)

・フランスがEU議長国を務めるパリでの特別会合でEU加盟国議員達に講演するよう要請を受けた。

(12/15-19 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●チハノフスキー氏への判決に対するチハノフスカヤ民主勢力代表のコメント

・もっと長い刑期も覚悟していたが、それでも打ちひしがれている。たとえどのような刑期であったとしても、それが人生の年月であることに変わりはない。それでも、夫が18年間投獄されたままになるとも考えていない。

・この判決は、ベラルーシの人々を奮い立たせるリーダーとなった夫セルゲイに対する復讐であることは明らか。ルカシェンコ体制は「女性とは闘わない」と言っているが、体制側の一挙手一投足からそれが空言であることが裏付けられている。

・夫の刑期のことを考えると気分がふさぎ込み、感情的に疲れてしまう。そのような時は、囚われている人々を釈放することや、他の政治犯の境遇に思いを致し、現実に戻るようになっている。

(12/14 Zerkalo)

【その他】

●ポーランド人兵士がベラルーシに亡命申請

・12/17、国家国境委員会は、16日にベラルーシ・ポーランド国境近くの国境線で、25歳のポーランド軍の兵士であるエミル・チェチコ氏を確保した旨発表。

・同人は、自分が対ベラルーシ国境地帯への非常事態発令後に国境警備のために投入された兵士であると述べ、ベラルーシへの政治亡命を要請

・同人はベラルーシ国営テレビのインタビューで、2件のボランディア殺人事件を目撃しており、ポーランドの治安部隊が毎日、移民達を殺害していたと証言。

・ブワシュチャク・ポーランド国防大臣は、同人は知人と深刻な問題を抱えており、除隊を申請していた旨述べた。ポーランド検察庁は同人を告訴。最高で10年の自由剥奪刑が言い渡される恐れがある。

(12/18 Zerkalo)

●約 200 万ユーロ相当のベラルーシ製たばこの密輸品の押収

- ・12/14、ポーランドとの国境で、186 万ユーロ相当額のベラルーシ製たばこの密輸品が押収された。
- ・トラックの運転手はウクライナ国籍で、菓子をエストニアからリトアニアを経由してベルギーに運ぶと申告していたが、書式に不備があったため税関職員が積み荷を確認したところ、ベラルーシ製たばこ 50 万箱が摘発された。

(12/16 Zerkalo)

●リトアニアにおけるベラルーシ製の密輸たばこの増加

- ・リトアニア税関によれば、2021 年のベラルーシ製たばこの密輸の摘発事例は前年比数倍に増加。2021 年第 1～第 3 四半期の押収量は 3 億 2,800 万箱。
- ・鉄道貨物を利用したたばこの密輸事例は、2019 年が 2 件、2020 年は 8 件だったのに対し、2021 年には 24 件に急増。2021 年の押収量は、直前 7 年間に没収された量と同程度。
- ・リトアニア国内のたばこのシェアの 4 分の 1 をベラルーシからの密輸品が占有。これら違法たばこの製造元は、ルカシェンコ体制と直接の関係がある企業で、同体制の資金源となっている。
- ・ベラルーシ国営「グロドノたばこ工場『ニョーマン』」の生産能力は、ベラルーシのたばこ市場規模の 3 倍。こうしたたばこがバルト諸国や西欧に流入し、ルカシェンコ体制の資金源となっている。

(12/18 Zerkalo)

●セルビア系企業が EUobserver を告訴

- ・ベラルーシのセルビア系企業「ダナ・アストラ」は、欧州のニュースサイト「EUobserver」が同社につき虚偽の記事を掲載しているとして、同記事の削除を求めて告訴。
- ・2020/10/14、「EUobserver」は、「ダナ・アストラ」とルカシェンコ大統領が緊密な関係にあるとする記事を

掲載。同記事によれば、ルカシェンコ大統領の長男 ヴィクトルの妻であるリリヤ・ルカシェンコが「ダナ・アストラ」の幹部であり、それによって「ダナ・アストラ」が優遇措置を受けているとされる。

・EUobserver は、記事の内容は裏付けが取れていると主張しているが、「ダナ・アストラ」は同記事が虚偽であるとして否定。

・「ダナ・アストラ」は、セルビア人のカリッチ兄弟が設立した建設・不動産開発企業「ダナ・ホールディングス」のグループ企業。「ダナ・ホールディングス」は旧ミンスク第 1 空港跡地の再開発事業等を行っている。

(12/16 Zerkalo)

●国家機構等に対する信頼度に関する世論調査

・ベラルーシ国立科学アカデミー社会学研究所と親政権の分析センター EcooM は共同で、どのような国家機構をどの程度信用しているかに関する世論調査を実施。

・同世論調査は 11/15 から 12/4 にかけて行われ、ミンスク市及び 52 地区(ミンスク市内の区を含む)の約 350 団体から 10,217 人が参加。

・EcooM は 2004 年から活動しており、教育省社会諮問評議会委員でベラルーシ作家連盟幹部会員のセルゲイ・ムシエンコ氏が代表を務めている。同センターは中央選挙管理委員会とも協力しており、その研究成果は有識者から何度も批判されている。

大統領

信頼している	45.9%
どちらかという信頼している	26.4%
どちらかという信頼していない	6.8%
信頼していない	7.5%
回答困難	10.2%
回答なし	3.2%

軍

信頼している	41.8%
どちらかという信頼している	28.8%
どちらかという信頼していない	6.4%

信頼していない	5.4%
回答困難	10.1%
回答なし	7.5%
・教会	
信頼している	35.2%
どちらかという信頼している	30.3%
どちらかという信頼していない	7.6%
信頼していない	9.7%
回答困難	11.1%
回答なし	6.1%
・治安機関	
信頼している	32.7%
どちらかという信頼している	29.8%
どちらかという信頼していない	9.2%
信頼していない	8.2%
回答困難	13.1%
回答なし	7.0%
・全ベラルーシ国民会議	
信頼している	32.4%
どちらかという信頼している	29.8%
どちらかという信頼していない	9.3%
信頼していない	9.3%
回答困難	12.5%
回答なし	6.7%
・政府	
信頼している	31.5%
どちらかという信頼している	28.3%
どちらかという信頼していない	9.6%
信頼していない	8.2%
回答困難	16.4%
回答なし	6.0%

・裁判官	
信頼している	29.6%
どちらかという信頼している	28.7%
どちらかという信頼していない	8.7%
信頼していない	8.7%
回答困難	16.8%
回答なし	7.5%
・国民議会	
信頼している	28.8%
どちらかという信頼している	27.6%
どちらかという信頼していない	9.3%
信頼していない	8.4%
回答困難	17.2%
回答なし	8.7%

(12/16 国営ベルタ通信、12/17 Zerkalo)

●12月17日現在の COVID-19 ワクチン接種状況

・1回目接種済みの人数は428万2,000人以上で、その内329万人8,000人以上が2回目も接種済み。

・各州及びミンスク市での2回目接種済みの人数

プレスト州	422,100人以上
ヴィテプスク州	349,100人以上
ゴメリ州	563,400人以上
グロドノ州	394,500人以上
ミンスク州	424,100人以上
モギリョフ州	414,700人以上
ミンスク市	641,500人以上

(12/17 保健省)

●ミンスク市で PCR 検査の結果を即日取得可能に

・12/18 現在、鉄道駅、長距離バスターミナル「ツェントラリヌィ」及びプロフキ通り13番の3か所のPCR検査場では、検査結果を当日中取得可。

・本措置は、ベラルーシからの出国者のための陰性証明書の有効期限が短縮されたことを受けたもの。

(12/18 Zerkalo)

(了)